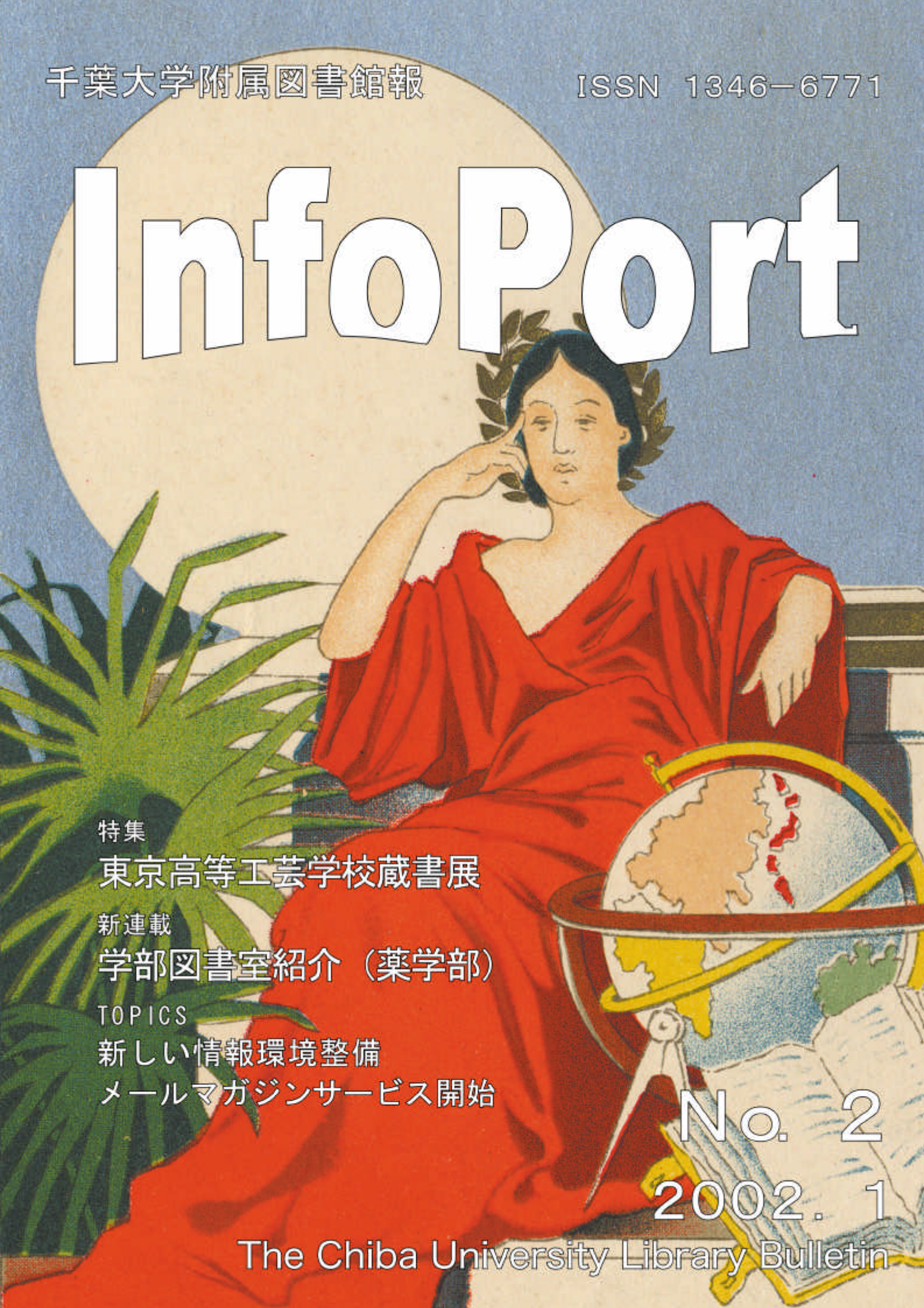
千葉大学附属図書館報
ISSN 1346−6771

InfoPort



特集
東京高等工芸学校蔵書展

新連載
学部図書室紹介（薬学部）

TOPICS
新しい情報環境整備
メールマガジンサービス開始

No. 2
2002. 1
The Chiba University Library Bulletin

Library Topics

「新しい情報環境」整備

1．千葉大学インハウス情報提供システム（学内サイト検索）

千葉大学内には200を超えるＷｅｂサーバが存在し、これまで、それぞれのサーバにある情報は、それぞれのリンクをたどらないと探せないような状況にありましたが、このシステムの導入により、これらのサーバの情報をキーワードにより一括して検索することが可能になりました。

2．統合情報検索環境

（1） 電子ジャーナルクロス検索システム

附属図書館では、電子ジャーナルサービスを積極的に導入していますが、各サービスごとに検索インターフェイスが異なっており、これまで論文の検索の際、それぞれのサイトにアクセスして検索条件を入力という作業を繰り返す必要がありました。

このシステムは、１回の検索で、しかも同じインターフェイスから、複数の電子ジャーナルサービスに散らばる論文を探すことを実現しました。

（2） グローバルＯＰＡＣクロス検索システム

近い将来の、海外の図書館との相互協力を見すえ、海外の主要な大学図書館の所蔵情報を一括して検索することを実現しました。

なお、「新しい情報環境」は http://www.ll.chiba-u.ac.jp/multi.html からご利用ください。

メールマガジン、サービス開始

これまで、図書館報、Library Alert、Ｗｅｂページ等、さまざまな方法でサービスの案内に努めてきましたが、迅速性、確実性の問題で充分とはいえない状況でした。この度、メールマガジンのサービスを開始し、より迅速かつ確実な広報を実現します。

登録方法は下記のとおりです。

1．本文に subscribe magazine とだけ書いて majordomo@mm.ll.chiba-u.ac.jp 宛にメールを出してください。その際， subject には，何も書く必要はありません。

2．上記のようなメールを送信すると，登録の意思を再確認するメールが返信されてきます。
その中に

auth (ランダムな文字列) subscribe magazine (登録者のe-mailアドレス)

という行があります。

この部分のみを本文にしたメールを再度 majordomo@mm.ll.chiba-u.ac.jp 宛に出してください。

3．正常に登録されれば，その旨のメールが届きます。

表紙: 平成13年度千葉大学附属図書館展示会「東京高等工芸学校蔵書展」展示品から、松岡壽の図案（「圖案新集」所収）

特集　「東京高等工芸学校蔵書展」開催

―日本近代デザイン画像データベース作成記念―

平成13年10月29日㈪から11月11日㈰までの期間、標記の展示会を開催しました。

この展示会は『日本近代デザイン画像データベース』の作成を記念し、同データベースに収録された資料の内、日本のデザイン教育をリードしてきた千葉大学工学部の前身「東京高等工芸学校」の蔵書を展示したものです。

○『日本近代デザイン画像データベース』

本データベースは、平成11・12年度に交付された科学研究費補助金により作成され、収録対象は日本における最も初期の代表的デザイン専門教育機関であった「東京高等工芸学校」及びその母体となった「東京高等工業学校」に所蔵されていた、多数のデザイン関係の図書・図案集の一部で、収録図書・図案集は309冊（おおむね明治13年から昭和13年までに発行されたもの）、収録画像数は、10,316画像に及びます。

なお、本データベースに収録した図案の著作者は500人を超えており、データベース公開に向けた著作権処理を継続しています。

○東京高等工芸学校の沿革

東京高等工業学校工業図案科

明治14年、近代的な技術教育を行うために設置された「東京職工学校」は、明治23年に「東京工業学校」、明治34年に「東京高等工業学校（現・東京工業大学）」と改称された。この際、科長に後の「東京高等工芸学校」初代校長の松岡壽、4代校長の安田祿造を教官とし、当時、前例のない「工業図案科」を設置し「産業技術に於ける製品の美的表現と精密化（安田祿造）」のための工芸教育をめざしたが、大正3年、学校運営経費の節減を理由に同科は廃止され「東京美術学校（現・東京芸術大学美術学部）」に併合されることになった。これに対し、旧教官や卒業生から活発な復活運動が続けられた。

東京高等工芸学校設立から千葉大学へ

工業図案科の復活運動は、東京高等工芸学校へと形を変えて実現し、大正10年に、東京市新芝浦町（現・東京都港区芝浦）に設置され、大正11年4月第1回の入学式が行われた。東京高等工芸学校では、宮下孝雄、森谷延雄、木檜恕一など西欧諸国に留学した新進気鋭の教授達によって、日本のデザイン史に残る活動が展開され、工芸デザイナーや指導者として多くの卒業生を全国各地に送り出していった。

〔昭和３年当時東京高等工芸学校正門〕

戦渦の激しい昭和19年、東京高等工芸学校は「東京工業専門学校」と改称されるが、昭和20年5月25日の空襲により、附属工業専修学校と図書館以外の校舎は焼失し、終戦直後の10月、松戸市にあった元陸軍工兵学校に移転した。同校は、昭和24年千葉大学の設置に伴い「工芸学部」として再出発し、昭和26年「工学部」に改組された。工学部が現在の西千葉に移転したのは、昭和40年のことである。

プレイベント「東京高等工芸の人々」

今回、本展示の前にプレイベントとしてパネル展示「東京高等工芸の人々」を開催しました。

この展示では、東京高等工芸学校の沿革として、大正11年の設立から千葉大学工学部へとして再出発するまでの歴史を紹介しました。また、東京高等工芸学校の創設期の教授陣や、輩出した多くのデザイナーの業績を紹介しました。

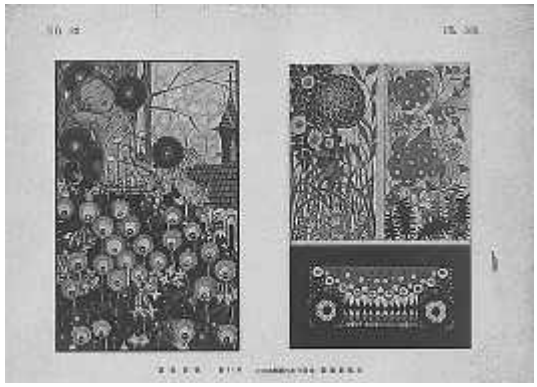
東京高等工芸学校蔵書展

【東京高等工芸学校教授陣の作品 ・ 著作】

〔『圖案新集』表紙〕

創設期の教授陣の作品は、『圖案新集』という当時の先進的な図版を集めて全国各地の工房へ雑誌形式で郵送していた図案集に集められています。『圖案新集』は、東京高等工芸学校教授、鹿島英二が編集主幹を務めていました。

展示したのは、東京高等工芸学校初代 ・ 3代校長松岡壽、4代校長安田祿造のほか、長きにわたり工芸図案科教授を務め、染織家としても活躍した鹿島英二、同じく工芸図案科教授で「デルタ図案研究所」を設立し、日本デザインの理論的研究に大きく寄与した宮下孝雄、工芸彫刻部教授でメタル ・ デザインで薄肉レリーフに優れた手腕を発揮した畑正吉、木材工芸科教授で、西洋家具の本格的知識を持ち、多くの設計 ・ 製作 ・ 著作によって黎明期の木材工芸界に寄与した森谷延雄などの作品です。



〔安田祿造の図案（『圖案新集』所収）〕

また、安田祿造編集の『圖案集』から、工芸図案科講師を務め「瀬戸図案研究会」、「大倉陶園」支配人でもあった日野厚らの作品を展示したほか、創設期の教授の１人で、日本の木材工芸教育の先覚者である木檜恕一の『現代日本の家具』等の著作や、バウハウスの影響を受け「型而工房」を設立した蔵田周忠の著作を展示しました。

【画像データベース中の著名画家の作品】

東京高等工芸学校蔵書の中には、教授陣の作品のみならず著名な画家、染織家等の画集などの作品が含まれています。その中から、神坂雪佳、津田青楓、杉浦非水、上野為二などの作品を展示しました。

【卒業生の著作】

多くのデザイナーを輩出した中で、「型而工房」を設立し戦後の日本デザイン界の指導者的役割を担った豊口克平（1928年工芸図案科卒）と、「ニューヨーク近代美術館」の20世紀デザインコレクションとして永久保存作品に指定された「籐丸椅子」を制作した剣持勇（1932年木材工芸科卒）の著作をピックアップし展示しました。

【東京高等工芸学校講義ノート】

東京高等工芸学校精密機械科第15回（昭和14年）卒業生、鈴木力雄氏による、講義ノートを展示しました。

これは、当時の機械力学の竹屋金太郎教授、金属材料学の橋本宇一教授の講義を鈴木氏がノートに書き綴ったものを製本したものです。教授の講義を参考書として永く留めるために、書き落とした部分を書き加え、練習問題のプリントも加えてまとめてあります。このノートは東京高等工芸学校同窓会「東高芸の会」会長四谷輝久氏が持参されたもので、展示会の後は図書館で保管することになりました。

【松戸市シリーズ展資料】

今回の展示に先立つ平成8年から、松戸市教育委員会は、東京高等工芸学校の歩みをとおして近現代日本デザイン史を展望する全3回のシリーズ展を開催しています。

千葉大学工学部は、昭和40年に西千葉地区へ移転するまで松戸に校舎を構えていたことから、松戸市教育委員会が、その前身である東京高等工芸学校を地域美術史のテーマとして取り上げて調査を行うとともに展覧会を開催し、その記録を『シリーズ東京高等工芸学校の歩み』として刊行しています。この『シリーズ東京高等工芸学校の歩み』を展示しました。

〔東京高等工芸学校旗（工学部蔵）〕

記念講演会

11月2日㈮、附属図書館ライブラリーホールにおいて、松戸市教育委員会学芸員森仁史氏と、工学部都市環境システム学科宮崎清教授による記念講演会を開催しました。

当日は、東京高等工芸学校同窓会「東高芸の会」の方々、工学部の教員・学生、その他学内外の参加者を集め、日本近代デザイン史と教育史に関わる有意義で貴重な講演会となりました。

■「日本デザイン前史－出自と理想」（松戸市教育委員会学芸員　森仁史氏）

松戸市のシリーズ展「東京高等工芸学校のあゆみ」を企画運営されてきた学芸員の森仁史氏の講演は、東京高等工芸学校設立前史ともいうべき内容でした。

近代化の幕開けとなった明治という時代は、日本人が絵であるとか陶磁器であるとか美的な人間活動の表現を「美術」と総称するという共通概念が生まれた時代であり、同時に、その美術品がヨーロッパにおいては、展覧会なり博覧会に出品され、輸出されることもある、ということに気づいた時代でした。近代化を目ざし欧米に追いつこうとしていた当時の日本では、そのための資金を得るものとして、日本の工芸品、美術品を輸出できるものにしようと、力を注いでいきます。その明治のデザイン振興策の初めの形が、いわゆる図案であり、図案をデザインのひな形として欧米に輸出できるものを作ろうとするものでした。一方、明治の20年代くらいになると日本が伝統的に持っていたものこそが、新しい日本美術のメインにならなくてはならないというナショナリスティックな美術政策へ転換していきます。ところが、1900年のパリ万国博覧会において、この日本の伝統美術は、思ったような評価が得られなかった。ここで、新たに日本の個性を活かしながら、同じ市場の中で欧米の製品と競争できるものをデザインできるかどうか、という課題に突き当たったのです。東京高等工業学校に工業図案科ができたのが、ちょうどこの頃でした。

このように、東京高等工芸学校の土台である東京高等工業学校の工業図案科が設立されるまでの明治という時代背景を、多様な例や人物をあげながら説明されました。

また、デザイン、工芸という言葉についても、今日我々がイメージする言葉との差違について説明され、東京高等工芸学校の工芸とはデザインであると理解してよいというお話でした。

日本にモダンデザインが入ってくる以前の歴史について研究が始まったのは、最近のことで、日本の美術なりデザインが仮に明治から出発するとなると、その骨格の中で、どのような内容をもち、どのような展開の仕方をしていったのかということが、だんだん明らかになりつつあると言うことでした。今回のような千葉大学附属図書館の展示会やデータベースの公開は、研究者にとっても大変大きな助けになるし、また一般の方々もそれにふれる機会を持ち、絵柄や内容を見て理解できるようになる素晴らしい事業だというお話があり、この展示会やデータベースにより、研究者とともに、一般の方々にも日本的なデザインの個性というものを積極的に見ていただきたい、と講演を締めくくられました。

■　「東京高等工芸学校の理念をつなぐ」（工学部　宮崎清教授）

引き続いて行われた工学部都市環境システム学科宮崎清教授の講演は、先の森氏の講演の後を引き継ぐように、東京高等工芸学校の開校前夜から始まりました。「圖案及応用」に対する社会の要請が高まる中、初代校長となる松岡壽らが設立委員となり開校された東京高等工芸学校が、実際にどのような教育をめざしたのかを明らかにされていきます。学科の構成、学生の出身地、カリキュラムなどといった資料から、校旗・制服という東京高等工芸学校の気風なども紹介されました。特に、東京高等工芸学校案内にある「芸術家ではなく技術者として社会に立つ」学生の養成をめざした事を紹介され、芸術家ではなく技術者として位置づけたと言うところが、東京高等工芸学校の大切なフィロソフィーであったと、強調されました。また、創設期の教授陣、卒業生の製作など、今見ても美しい絵柄やデザインが紹介されました。他にも当時の写真や資料など貴重な映像がスライドに映し出され、多くの参加者の目を奪いました。

昭和に入り、東京高等工芸学校にも戦争の影が落とされるようになり、モダンであった背広の制服が詰め襟に代わり、昭和20年には、一時的にも東京工業専門学校と名称も変更され、東京大空襲により校舎を喪失することになります。そして、松戸へ移転し、昭和24年新制国立大学・千葉大学工芸学部として再出発し、昭和40年西千葉へと移転し現在の千葉大学工学部へ引き継がれています。千葉大学の卒業生の作品がここでもスライドで紹介されますが、身の回りにある工業製品、家電、車、化粧品等のパッケージまであらゆるもののデザインに卒業生が関わっていることがわかります。

東京高等工芸学校から現在に至るまで、学科の名称や講座の構成や学生数も変遷していますが、基本的なコンセプトや理念、技術と芸術とのコーディネーターである図案家、工芸家、デザイナーという考え方は不変の形で現在も引き継がれ、将来にわたって不変であるべきであると、宮崎教授は強調されました。

□　東京高等工芸学校同窓会「東高芸の会」（江越寿雄氏）

ここで、講演会参加者の中に、東京高等工芸学校同窓会「東工芸の会」の方が何人かいらしたので、急でしたがお話をしていただきました。当時の話や同窓会の活動について話してくださったのは、昭和22年写真工業科を卒業された江越寿雄氏でした。ちょうど、東京高等工芸学校が戦争により東京工業専門学校と改称された時代に学生生活を過ごされ、当時の思い出や学校の様子などをお話しいただきました。

また、同窓会「東高芸の会」では、今年（平成13年）が東京高等工芸学校の創立80周年にあたるとして、芝浦の創立の地（現在の東京工業大学工学部附属工業高等学校）に記念碑を建立したことをご報告下さいました。

なお、11月22日、千葉大学から山口正恆工学部長、宮崎紀郎工学部教授も列席し、除幕式が行われました。また、千葉大学工学同窓会でも、創立80周年を記念して松戸市松戸中央公園の千葉大学工学部跡地に記念碑を建立し、12月27日に千葉大学、松戸市等多くの関係者の列席のもとに除幕式が行われました。

展示会を終わって

平成13年は、奇しくも東京高等工芸学校創立80周年にあたりました。展示会は約2週間の短い展示でしたが、講演会や東京高等工芸学校蔵書を通じて、千葉大学の誇りうる歴史と、今に受け継がれる理念、そしてまた現在に多大な足跡を残した日本近代デザイン史上の意味を、ご覧になった方々に少しでも伝わったことと思います。

図書館の小さなスペースでの展示であり、行き届かないことも多くありますが、来年以降もこのような形で、今につながる歴史の一端をご紹介できればと思っております。下記に、期間中みなさんから寄せられたご意見ご感想をご紹介します。

- 千葉大の工学部の歴史を知らなかったのでとても興味深く見させていただきました。（学生）
- 作品の展示の仕方が親切。誰が見てもわかりやすいように作ってある。（学外）
- このような展示会は、感性に対する刺激として有意義と感じた。（学生）
- もっと大規模だとさらによいと思う。（学生）
- 松戸市が東京高等工芸学校の歩みを取り上げて地域に大きな文化貢献をしてきたことの意義は大きいと感じた。（教員）
- 定期的にこのような展示をしていただきたい。（学生）
- 自分は工学部の学生です。大先輩達がこんなに凄いものを作っていたなんてなんか不思議です。（学生）
- 講義ノートが良かった。（学生）
- 千葉大の図書館でも専用のコーナーを作って常時展示して欲しい。（学生）
- 限られたスペースの中で展示品の数も多すぎず少なすぎずとても見やすいと思いました。年齢を問わず目をひく美しい色彩の図案がたくさんあって楽しめました。（職員）
- グローバルな視点での比較を展示していただきたい。（学外）
- もっとたくさんみたい。時代別にして欲しい。もっと見やすくわかりやすい展示方法だとより良い。（学外）
- ものに対しても感受性の多様さを見せていただきました。（学外）
- 千葉大の歴史の流れが理解できて面白かったです。（学生）
- ノートを見て大変きれいな字で書かれてあるなと感心しました。（学外）
- 実用性と共に美しさを追求する意義を再認識できたように思います。素晴らしいものでした。（学生）
- スペースの問題もあろうが、規模を拡大できないか？年表による説明もあれば良かったと思う。（職員）
- 東京高等工芸学校に関する展示等をもっと積極的に行っていただきたい。データベースは、作品ばかりではなく作者の情報もリンクしていただきたい。（学外）

学部図書室紹介　新連載

【第１回】　薬学部図書室

薬学部図書室　　尾　川　美保子

西千葉キャンパス内、東隅に位置する薬学部は、奥まった立地のお陰で、静かで落ち着いた雰囲気が感じられる。

薬学部の歴史は古く、すでに百十余年の伝統がある。その歴史を物語るかのように、書架には、明治14年に創刊された『薬学雑誌』が1号から揃い、また、書庫には、“Liebigs Annalen der Chemie”や“Chemische Berichte”などの1800年代からの雑誌が、今も出番を待っている。

大学院は昨年改組され、23研究室になった。その教員、院生が主な図書室の利用者である。その為薬学関係の専門図書、学術雑誌が所蔵の大半を占めている。

実験中の学生が、また論文執筆中の先生が、今必要としている論文を捜し出しに来る小走りの足音が聞こえてくる。「見たいものは、すぐ見たい。」こんな願いが叶うように、化学系、生物系、医学系・・・と時代の流れに沿った国内外の学術雑誌が、新着棚にカラフルに並ぶ。

近年加速度的に普及してきた、雑誌の電子ジャーナル化の恩恵を受け、購読している外国雑誌（2002年65タイトル）の中、約72%がインターネットで全文検索できるようになった。まるで生き物のように、日々変化していくOnline情報を、先生方だけではなく、学生にも広くPRしていく為に、「電子ジャーナルの手引き－Full-Textへのアプローチ」（毎月改訂）、「薬学メールニュース：薬学Library Mail Alert」を発信している。

当然のことながら、全学に開かれた図書室である。研究分野が重複する理学部、工学部等からも、年間2000人を越える利用があり、顔馴染みになった先生や学生が増えて喜んでいる。

春、2階にある図書室から眺める桜は、見事である。お花見の隠れたスポットとしてもお薦めの薬学部図書室に、どうぞお気軽にお越しください。

場　　所：薬学部1号棟2階
開室時間：10：00～17：00
休 室 日：土・日曜，祝日，年末年始
　　春期・夏期休業期間
備　　考：貸出は薬学部関係者に限る
　　コピーは薬学部用カード分に限る

[薬学部図書室新着雑誌架]

教員からの寄贈著書（平成13年6月～平成13年11月配架分）

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。（50音順　敬称略）

【本　館】

市川　熹（自）
・人と人をつなぐ声・手話・指点字／市川熹著.- 岩波書店, 2001
（本館閲覧室３階　378.28／HIT）

宇佐美　寛（名誉教授）
・宇佐美寛・問題意識集;1-5／宇佐美寛著.- 明治図書出版, 2001
（本館閲覧室３階　375.8／USA）

奥村　隆（文）
・エリアス・暴力への問い／奥村隆著.- 勁草書房, 2001
（本館閲覧室３階　361.234／ERI）

小倉　美知子（文）
・英語の歴史／小川浩[ほか]著;松浪有編.- 大修館書店,1995.- 分担執筆
（本館閲覧室４階　830.2／E37）

金田　章宏（留セ）
・八丈方言動詞の基礎研究／金田章宏著.- 笠間書院, 2001
（本館閲覧室４階　818.369／HAC）

倉田　達（名誉教授）
・英文法論叢;別冊／倉田達著.- 篠崎書林, 2001
（本館閲覧室４階　835／KU56）

建石　隆太郎（環リモセ）
・Опустынивание засушливых земель прикаспийского региона / Г. М. Борликов ... [et al.] . – Издательство СКНЦ ВШ, 2000. - 分担執筆
（本館閲覧室３階　454.64／OPU）

田中　國昭（工）
・産業技術史／中岡哲郎 [ほか] 編.- 山川出版社, 2001.- 分担執筆
（本館閲覧室３階　602.1／SAN）

土屋　俊（文）
・ことばの認知科学事典／辻幸夫編. - 大修館書店, 2001. - 分担執筆
（本館閲覧室４階　801.04／KOT）

中林　真幸（法経）
・民衆世界への問いかけ／大門正克, 小野沢あかね編.- 東京堂出版, 2001.- 協力
（本館閲覧室２階　210.08／TEN）

坂野　潤治（法経）
・日本政治「失敗」の研究:中途半端好みの国民の行方／坂野潤治著.- 光芒社,2001
（本館閲覧室３階　312.1／NIH）

堀　善夫（工）
・電極触媒科学の新展開／高須芳雄, 荒又明子,堀善夫編著.- 北海道大学図書刊行会, 2001
（本館閲覧室３階　431.73／DEN）

松葉　育雄（工）
・確率／松葉育雄著.- 朝倉書店, 2001
（本館閲覧室３階　417.1/KAK）

三宅, 山田, ほか執筆者一同（文）
・歴史の中の差別:「三国人」問題とは何か／三宅明正,山田賢編著.- 日本経済評論社, 2001
（本館閲覧室３階　361.8/REK）

教員からの寄贈著書（平成13年6月～平成13年11月配架分）

【亥鼻分館】

安達　惠美子（大学院医学研究院）

・培養シュワン細胞を用いた人工移植片開発による視神経再生とその機能解析に関する研究／安達惠美子研究代表.-[千葉大学],2001
（亥鼻閲覧室　WW400）

・やさしい神経眼科／安達惠美子編集.- 文光堂, 1994
（亥鼻閲覧室　WW100）

佐藤　禮子　（看護学部）

・看護学概説／佐藤禮子編著.- 放送大学教育振興会, 2001
（亥鼻閲覧室　WY100）

森崎　信尋（元大学院医学研究院）

・平成徒然草／森崎信尋著.- 日本医事新報社, 2001
（亥鼻閲覧室　914.6）

人　事　異　動

（転出）　平成13年9月1日
信州大学附属図書館情報サービス課長
　長友　良維（情報サービス課図書館専門員）

（昇任）　平成13年10月1日
情報サービス課図書館専門員
　五十嵐　裕二（園芸学部図書係長）
園芸学部図書係長
　田久保　信夫（園芸学部図書係）

（配置換）　平成13年10月1日
情報管理課総務係
　合戸　祐子（総務部研究協力課
　　研究支援事務室研究支援係）
園芸学部図書係
　下妻　弘美（情報サービス課閲覧・参考係）

（採用）　平成13年10月1日
　金山　亮子（情報サービス課閲覧・参考係）

（配置換）　平成13年11月1日
情報管理課情報基盤推進室情報基盤係主任
　中川　健一（医学部学術経理係主任）

（辞職）　平成13年8月31日
　沼口　恵美子（情報管理課総務係）

行　事　日　誌（平成13年7月～12月）

7月6日	国公私立大学図書館協力委員会常任幹事会，国公私立大学図書館協力委員会（京都大学）
7月18日	平成13年度第2回附属図書館運営委員会，第1回自己点検・評価委員会
7月24日	平成13年度第1回資料選定委員会
8月9日	国立大学図書館協議会電子ジャーナルユーザー教育担当者研修会（東地区）（主管）
9月20日	第47回千葉県大学図書館協議会（東洋学園大学）
10月11日	平成13年度第3回附属図書館運営委員会
10月19日	国公私立大学図書館協力委員会常任幹事会，国公私立大学図書館協力委員会（早稲田大学）
10月19日	平成13年度千葉市図書館情報ネットワーク協議会臨時総会（千葉市生涯学習センター）
10月25日	国立大学図書館協議会理事会（大阪大学）
11月6日	平成13年度第2回資料選定委員会
11月9日	関東地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議（茨城大学）

千葉大学附属図書館報 InfoPort No.2
平成14年1月発行
編集・発行 千葉大学附属図書館
〒263- 8522 千葉市稲毛区弥生町1- 33
TEL: 043-290-2262
FAX: 043-290-2266
URL: http://www.ll.chiba-u.ac.jp/